



4つて子応援団



【活動報告】5年生 火起こしチャレンジ！

6月6日（土）の参観授業で、5年生の児童を対象に、火起こし体験を実施しました。これは、6月24～25日に行われる臨海学習での野外炊飯に向けて、火を起す手順を事前に学習するための取組です。

火をつけるために何が必要で、どんな道具を使うのか、向日市のボーイスカウトの方々をお招きし、地域のボランティアの皆さんと一緒に学習しました。

児童の前でお手本を見せながら説明してくれたのは、ボーイスカウト向日第1団に所属する中学生でした。頼もしい先輩の姿から多くの学びがありました。

学習その1



火をつけるために必要なものは？

今回の火起こしでは、熱はマッチ、燃えるものは新聞と薪を使って、空気（酸素）を上手に取り入れながら火をつけます。まずは薪を割って準備をします！



どうして火がつくのか。理由を知るところから学びが始まります。

学習その2



ナタを使って薪割りに挑戦！

ボーイスカウトさんのお手本を見ながら、ナタを使って薪割りを体験しました。「ナタの刃を少し斜めにして薪に当て、地面にトントンと叩きつける」という方法で、子どもたちは慎重に取り組んでいました。



ナタを友達に渡すときは、刃は自分側に、持ち手側を相手に、声をかけ合いながら安全に受け渡します。



～貴重な体験がたくさんできました～

このお便りのカラー版を4向ホームページにアップしています。ぜひご覧ください。

学習その3

飯盒の中蓋で2合分を計量し、水を入れて優しくかき混ぜながら洗います。

「お米を洗ったことがない」という子どももいましたが、米粒をこぼさないように、丁寧に取り組んでいました。



お米を洗って炊飯の準備



学習その4



新聞紙をふんわり丸め、その上に細い木、そして薪を組んでいきます。空気の通り道を意識しながら組むことがポイントで、「新聞 → 細い木 → 薪」の順に火がつくように考えることを教わりました。

新聞紙と薪を組んで火起こしの準備



学習その5



いよいよ火つけ！

各班で火をつける担当を決め、マッチで点火します。「火をつけるのが怖い」という子どももいましたが、説明をしっかりと聞いて理解できている班は、とてもスムーズに進めることができました。マッチに火をつけたら横向きにして火をキープし、新聞紙の中央にそっと置きます。燃料・空気・熱のバランスが整うと薪に火がつき、どの班からも歓声が上がりました。



火つけは「やりたい！」という子が多く、じゃんけんで決める班もありました。



すぐにできなくても、考えることが大切

火起こしは、すぐに成功するとは限りません。うまくいかないときに「どうだったっけ？」と自分たちで考え、試行錯誤する姿が見られました。この経験は、臨海学習だけでなく、日々の学びにもつながる大切な力になります。



ハイ！
上手にご飯が
炊けました♪



暑い中ご指導いただいたボーイスカウトの皆様、地域ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。今回の体験は、子どもたちにとって貴重な学びとなり、臨海学習への大きな自信につながりました！